講義名	対1)経営管理論Ａ（マーケティング学科2年生+3年生以上）					授業形態	
担当教員	長田　貴仁	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング	

主題と概要

主題：企業統治（コーポレートガバナンス）の観点から経営管理を学ぶ。
概要：国境を超えた企業による合併・買収（M&A）　大企業の分割、リストラ、企業の持続的成長、社会貢献など、メディアで頻繁に取り上げられるようになったリアルなビジネス現象を常に盛り込みながら、講義を進めていきます。本講義にまじめに取り組めば、「日本経済新聞」に書いてあることさえ分からないというレベルから、半年で「分かる」レベルまで成長することができるでしょう。

到達目標

１．経営学の主要領域である「経営管理論」の基礎知識を身に着けられる。
２．企業統治（コーポレートガバナンス）を学び、会社全体を把握できるようなる。
３．就活、そして就職後も役立つ実践的理論を習得できる。

提出課題

適宜指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

Q&Aタイムを設け、質疑応答する。

評価の基準

期末テスト50%、講義内で求める提出物50%.
本講義は、現代ビジネス社会の評価基準である「信賞必罰」を適用する。
良い結果を出した人は高く評価する。本講義開始後に守らない場合は、「契約違反」として処する。
「現代ビジネスの基本」は契約である。履修登録した段階で、以下の契約内容に同意したことになる。
１．「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を体現し、組織（クラス）のモチベーションを高める前向きの姿勢を見せた人は努力点として加点する。
２．他の科目と同様、出席は当たり前。無断欠席は大幅減点。欠席する場合は証明書類（例：公欠届、医師の診断書か病院の領収書写し、など）を提出せよ。
３．組織（クラス）を落とす迷惑行為、業務（授業）を妨害する行動、発言については、始末書の提出を求める場合がある。その結果ごたいで、大幅減点になることを認識し「大人としての行動」を心掛けて欲しい。

履修にあたっての注意・助言他

１．テキストの予習、復習を欠かさないこと。ただ座り、ボーと聞いているという態度は謹んで欲しい。講義中はノートに記す作業を怠らないこと。
２．毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「日経ビジネス」、「東洋経済」、「ダイヤモンド」、「プレジデント」、「エコノミスト」などのビジネス誌も定期的に目を通しておき、常に「情報武装」しておくことが望ましい。
３．テーマを決め、それ関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。

教科書

.企業統治.	吉村典久/田中一弘/伊藤博之/稲葉裕之	中央経済社	2,400円	978-4-502-22511-6

参考図書

その他

適宜配布する。

授業計画

１，「経営管理論」を知らなくては就職できません。出世できません。勝ち残れません。
２．「当社の企業統治について意見を」と面接で聞かれたら…。
３．「株式会社」以外の会社をどれだけ知っていますか。
４．「起業したい」と口にする人は多いですが、「資金調達」はどうするのですか。
５．「好きなことがしたい」という思いだけで、グーグルのように急成長を果たせますか。
６．「社会に役立ちたい」と思っているだけでは、社会貢献できません。
７．写真フィルム世界最強のコダックが滅び、富士フイルムが生き残った理由。
８．Q&Aセッション～これまでの講義内容について質疑応答します。
９．社長はリストラ、社長も首になる時代です。
10．「息子や娘が社長をしている会社なんて行きたくない」と思っている人の勘違い。
11．よく耳にするNPOっていったいどんな組織なでしょうか。
12．「ブラック企業」に就職したいですか。あなたは目利きできますか。
13．今、就活生の間で人気の「福利厚生の良い会社」は企業の責任を果たせていますか。
14．あなたは、「良心」について真剣に考えたことがありますか。
15．Q&Aセッション～これまでの講義内容について質疑応答します。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：2時間＝テキストをどんどん読み進めること。
復習：2時間＝講義中にメモした内容とテキストの内容を合体させ、「自分ノート」に記し、編集すること。
毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」を育成するため、
１．課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
２．収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
を高める。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。

備考

ビジネス誌「プレジデント」編集部を経て、2005年4月、神戸大学大学院経営学研究科助（准）教授に就任したのを皮切りに大学の世界に入りました。その後、複数の大学、大学院で一般学生だけでなく、社会人も教えてきました。その中には現役社長も数名いらっしゃいました。これまで、ニューヨーク駐在の他、世界各国で多くの企業エグゼクティブを取材してきました。経営学とビジネス・ジャーナリズムを統合した視座から論考したオピニオンを、学界「学会」に留まらず広く社会に向けて、分かり易い言葉で発信し続けています。ジャーナリズムを知る経営学者、経営学を知るジャーナリストです。現在も、新聞、ビジネス誌などを中心に、執筆し、コメントを発信しています。私の最大の特徴は、実際に戦後の日本経済の成長を支えた日本を代表する経営者たちと実際に対話してきたことです。そこから得た知見を生かし、「生きた経営学」を教授したいと考えています。